

平成31年度 東村山市立東村山第五中学校 学校評価報告書

学校教育目標

磨きあうこころ 鍛えあうからだ 高め合う学力 助け合うなにかま

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 生徒が安心して生活し、自らの可能性を伸ばすことのできる学校
- 【目指す児童・生徒像】 将来の幸せの基盤を築くことのできる生徒
- 【目指す教師像】 生徒や保護者、職員から信頼される教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果・・・①特別支援教育の推進 ②生徒による自主自律に基づく活動の促進
 課題・・・①主体的に活動できる生徒集団の育成・発展 ②主体的な学びの推進 ③不登校生徒への組織的な取組

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 課題と対策 | 第2回評価 | | 課題と次年度以降の対策 |
|------------|---|-------|------|--|-------|------|--|
| | | 努力目標 | 成果目標 | | 努力目標 | 成果目標 | |
| 学力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・マクネットやホワイトボードを活用し、目的を明確にした授業づくりを行い、また話し合い活動を推進する。 ・生徒一人一人のつまづきに対応 | 3 | 3 | 今年度は職員の人入れ替わりも多かったため、五中で取り組んでいる授業のユニバーサルデザイン化による、誰にでも分かり、興味をもてる授業の実施を徹底し学力の向上に努める。 | 3 | 3 | 誰にでも分かる分かりやすい授業を行うことを目指し今後も努力を続ける。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の振り返りを大切に、生徒が分かったと思える授業を推進する | 3 | 3 | 生徒の受けとめもまだ不十分であり、さらに粘り強く取り組んでいく必要がある。 | 3 | 3 | ホワイトボードの活用はとても効果があり、今後も様々な話し合い活動で活用を続けていきたい。生徒自身の、自分は学力が向上していると思うという意識を高めていきたい。 |
| 健全育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・「心の葛藤」のある道徳授業を行う。 ・独自の特別授業により、いじめ・自殺予防を全校で行う。 | 4 | 4 | 特別な教科道徳の実施に向け、様々な考え方から、心の葛藤がある授業を目指す。 | 4 | 4 | 今年度は紙芝居サークルの方を招いた授業が、都合により実施できなかった。来生命尊重については様々な場面で指導を続けていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣がきちんと身に付くよう指導の徹底を図る。 ・生徒の主体的な活躍の場、活動の場を創る工夫をする。 | 3 | 3 | 行事や生徒会活動など様々な活動の場を利用しやいじめ・自殺予防の活動を継続して進めていく。基本的生活習慣の徹底の職員の共通理解は図れている。 | 3 | 3 | 特別活動を軸とした学校づくりを進めていく中で、生徒が自己実現に必要な資質・能力を育み、自己有用感を高めていけるようにしていく。 |
| 健康・体力づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○「早寝・早起き・朝ごはん」 ・保護者への啓発 ・校長講話 | 4 | 4 | 8割以上の生徒は朝ごはんを食べているが、早寝・早起きの徹底はまだ不十分である。保護者へ、生徒の基本的生活習慣を徹底する啓発活動を行う。 | 4 | 4 | 基本的生活習慣を身に付けられるよう、保護者への啓発を粘り強く行い、健康・体力づくりに努める。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○健康についての情報発信 ・保健便りにもとづく指導 ・安全教育を各教科、特別活動等と関連させ推進する。 | 4 | 4 | 保健便りをはじめ、各種便りで健康についての情報発信ができていく。Docomoより講師を招きセーフティ教室を実施した。 | 4 | 4 | 今年度は学年閉鎖もあったので、保健便りをなどを用いて、健康についての情報発信や感染症予防についての日常の取組の重要性をより効果的に行う。 |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校便りとメール配信、ホームページの充実 ・地域行事への参加 | 4 | 4 | 毎月の学校便りと一斉メール配信の充実する。クラス連絡網を廃止し、一斉メールへの一本化の準備を進めていく。 | 4 | 4 | 毎月の学校便りで効果的に情報発信を行うことができた。学校から発信する連絡・情報を一斉メールに一本化するにあたって、メール登録をしない家庭への働きかけ、していない家庭への対応が課題である。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を通しての相互理解 ・保護者、地域の人材活用 ・避難所開設に向けての取組 | 3 | 3 | 保護者・地域の人材活用を、今年度残りの期間で。避難所開設に向けての地域の意識が低い。市の担当の啓発活動に協力する。 | 3 | 3 | 職場体験では多くの事業所に協力をいただき、成果をあげることができた。青少対五地区との連携も徐々に深めることができていっているので、さらに進めていく。 |
| 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動による自律的な取り組み ・経営支援部による教育環境の整備・充実 | 3 | 3 | 生徒会活本部を中心として、生徒の自治的な活動がおおむね順調に行われている。経営支援部による教育環境の充実をより一層図る。 | 3 | 3 | 来年度は、生徒会の年間活動スローガンを立て、それをもとに専門委員会の活動のさらなる工夫・改善を図っていく。生徒が主体的に学習や行事、生徒会活動などに取り組むことができることを目指す。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力を育て、スピーチによる報告・模造紙による報告等発表の方法を工夫させる | 4 | 4 | 様々な教育活動を通して、スピーチによる報告・模造紙による報告等発表の方法を工夫する。廊下での掲示や保護者会での発表を行う。 | 4 | 4 | プレゼンテーション能力は順調育ってきている。様々な教育活動で今後もスピーチによる報告、模造紙による報告等の発表を工夫していく。生徒のリーダー育成、学級づくり、学年づくり、生徒や集団の動かし方に関するスキルアップを目指す。 |